

**製品名: mGluR2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13859**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	GRM2
別名	GRM2; GPRC1B; MGLUR2; Metabotropic glutamate receptor 2; mGluR2
遺伝子 ID	2912.0
SwissProt ID	Q14416
免疫原	抗血清はヒト GRM2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 241-290

**背景**

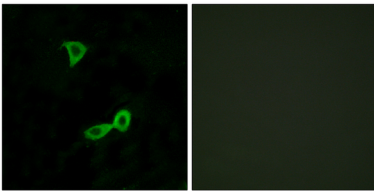
グルタミン酸代謝型受容体 2 (GRM2) ホモサピエンスの L-グルタミン酸は、中枢神経系の主な興奮性神経伝達物質で、イオンチャネル型と代謝型の両方のグルタミン酸受容体を活性化します。グルタミン酸作動性神経伝達は、正常な脳機能のほとんどの側面に関与

しており、多くの神経病理学的状態で障害される可能性があります。代謝型グルタミン酸受容体は、Gタンパク質共役受容体のファミリーであり、配列相同性、推定シグナル伝達メカニズム、および薬理学的特性に基づいて3つのグループに分類されています。グループIには、GRM1とGRM5が含まれ、これらの受容体はホスホリパーゼCを活性化することが示されています。グループIIにはGRM2とGRM3が含まれ、グループIIIにはGRM4、GRM6、GRM7、およびGRM8が含まれます。グループIIとグループIIIの受容体は、サイクリックAMPカスケードの阻害に関連していますが、アゴニストの選択性が異なります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。機能：グルタミン酸受容体。この受容体の活性は、アデニル酸シクラーゼ活性を阻害するGタンパク質によって媒介されます。神経伝達の抑制を媒介するか、シナプス形成またはシナプス安定化に関与している可能性があります。類似性：Gタンパク質共役受容体3ファミリーに属します。サブユニット：GRASPと相互作用します。組織特異性：胎児脳だけでなく、成人脳の様々な領域で広く発現しています。

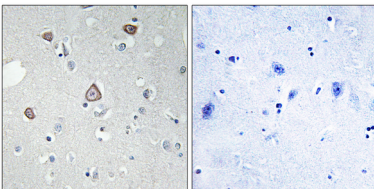
## 研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

## 画像データ



GRM2抗体を用いたLOVO細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



GRM2抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。